

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070703667		
法人名	有限会社 精祥		
事業所名	グループホームのぞみ れんげ草		
所在地	〒807-0821 福岡県北九州市八幡西区陣原3丁目25-1		
自己評価作成日	平成28年11月1日	評価結果確定日	平成28年12月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&jigyosyoCd=4070703667-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1 九勸筑紫通ビル9階		
訪問調査日	平成28年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2ユニットを完全に分けるのではなく、毎日交流を行い一緒にレクリエーションを行っています。リハビリに関しては毎日の起立訓練を行っている他に、その方の状況に合わせ、生活の動作の中で立ち上がりや歩行を支援しています。そうする事で身体機能の維持・向上に取り組んでいます。

季節に合わせた草花や飾り付けを行う事で、明るい雰囲気作りを心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

目標達成計画に基づいて、全職員で協議し創り上げた事業所独自の理念(笑顔で楽しく地域と共に暮らせる家づくり)を毎日の朝礼で唱和し日常支援に実践している。地域自治会や地区の方々との連携を図っている。毎月事業所側の公園清掃を職員と地域住民の方と一緒に清掃活動を行っている。また、この公園は事業所の災害避難場所となっている。家庭的な雰囲気を入居者は生活している。食事は職員手作りで楽しく食事をしていた。食材は職員が直接スーパーなどに買い出しを行い新しい物を購入し工夫している。職員や入居者に対して、不安やストレス等の軽減に月1回病院から衛生士を派遣し相談ごとや研修などに取り組んでいる。また、入居者対象に月に1回、マッサージ師の訪問がある。常に管理者の介護支援に対するポジティブな姿勢が伺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼後に職員全員で理念を唱和し、理念を意識して日々の支援を行っています。	目標達成計画に基づき、全職員で協議し創り上げた事業所独自の理念(笑顔で楽しく地域と共に暮らせる家づくり)を朝礼で唱和し入居者支援に実践している。常に職員が意識できるように各ユニットの壁に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加して、関係作りに努めています。またグループホームの行事に、地域の方を招いたり、ボランティアで参加して頂いています。公園の清掃の担当になり、地域活動も行っています。	地域とは行事などを通じて連携を図っている。保育園の運動会や発表会等にも参加し交流を深めている。事業所側の公園も地域と連携して、月1回の公園清掃を職員と住民とで清掃している。また、この公園は事業所の災害避難場所でもある。年末パトロールも計画中である。	地域との関わりは事業所として積極的に交流を深めている。地域の実情を考慮しながら地域住民が介護事業を理解し、行事などに参加できるようなシステムを構築されることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別な呼びかけは行っていないですが、いつでも相談に対応する準備はしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の自治会長や老人会の方に参加して頂き、グループホームでの出来事を報告しています。また地域の方の要望や意見を聞き、地域の手伝いを行っています。	自治会長や副会長・地域包括センター・地区役職の方々が運営推進会議へ参加している。事業所の現況・行事などを報告し参加者からの意見や要望なども取り入れている。以前は家族も参加していたが、現在では家族参加はない。	地域の方々の参加を含め運営推進会議は定期的に開催しているが家族の参加はない。家族が参加しなくても、家族が参加できたような工夫(意見文書等依頼)を考え、家族からの貴重な意見や要望を聞き入れ活用し、事業所の運営及びサービス向上に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターへの相談に関しては現在行っている例はありませんが、運営推進会議を通じ、グループホームの状況を伝えています。	地域包括支援センターへの相談としては、地域以外の方からの相談などを伝えている。その他の相談等はパソコンに記録し、運営推進会議等を利用して事業所の運営状況を報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関して、身体拘束廃止委員会を開催しています。また転倒や転落の危険性のある入居者に関してはセンサーマットを利用して、拘束しないケアを行っています。センサーマットの利用に関してもスタッフ会議等で話し合い、必要が無ければ取り外す様にしてしています。	事業計画の中で取り上げ毎月1回身体拘束職員研修を行っている。入居者の状況によっては危険防止のためにセンサーマットなどを活用している。常に状況等を観察し必要・不必要などについても身体拘束職員会議で判断し実践している。また、会議録を残し職員へ周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待と思われる声掛けや、行為があった場合は個別に面談を行います。また注意するだけでなく、職員のストレスや不安の軽減に努め、虐待が生じにくい環境作りを行っています。病院から衛生士を派遣して頂き、相談できる体制作りをしています。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の方で後見人制度を利用されている方がいますので、職員にもそういった制度なのか説明しています。また家族にも、必要な方に関して説明を行っています。	現在1名の方が権利擁護を利用している。権利擁護については入居契約時に本人・家族へ説明している。毎月1回、権利擁護センターみらいより担当職員が派遣され状況確認に来所している。職員へは権利擁護研修等で周知している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、見学を行った上で不安な事や疑問に答えています。また無理な勧め方はせず、家族や本人が納得して入居出来る様に心掛けています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や意見があり、職員に直接言いづらい方もいらっしゃいますので、意見箱を設置していますが現在利用はありません。また面会の度に何か意見や不満が無いかこちらから尋ねています。	意見箱を設置しているが、利用している家族はいないのが現状である。面会時や外出時を利用し口頭等で確認している。家族からの意見や要望が出やすいような工夫を考えている。家族的な雰囲気の中で生活支援ができるよう工夫している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回スタッフ会議を開催して、意見交換を行っています。また個別に相談がある場合は、すぐに話が出来る様に心掛けています。	職員からの意見や要望については、出来る範囲の中で対応している。希望休や有休、勤務交代なども相談を行い考慮している。購入物品についても職員の要望に応えられるように対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表の作成前に希望を聞き、極力応えられる様にしています。また家族の都合や子供の対応による急な勤務変更も調整しています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	職員の募集、採用にあたっては性別や年齢で差別する事のない様にしています。職員のキャリアアップについては、外部研修や内部研修の参加を希望する場合は、調整しています。	職員採用にあたっては、人間性・認知症に対する理解度やその方の雰囲気等を見ている。試用期間を通じ職員の資質や対応性を確認している。定年は70歳までとし、20代から60代までの職員構成である。内外部研修を利用してスキル向上に実践している。	介護事業を取り巻く環境は厳しいものがある。事業所で従事している職員のモチベーションを高め、入居者に安心・安全な生活が提供できるような取り組みや工夫、内外部研修や実習生等を受け入れ、外部からの新しい見かた考え方などを取り入れた、職員へのスキル・キャリアアップに期待したい。
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	人権については、ミーティングやスタッフ会議の場で基本理念に基づき説明をしています。	入居者支援において、悪い言葉使いや上から目線の威圧的な態度等を見つけた時は、その場(入居者のいない所)で注意を促すようにしている。また、職員ミーティングや職員会議などで協議し周知している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については職場で費用を負担しています。また受講後は伝達研修を行い、他のスタッフも見識を深める様にしています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列施設との会議や、研修で知り合った方との定期的な連絡、意見交換を行っています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問や体験入居を行って、安心してサービスの利用が出来る様に努めています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安な事や疑問な事に対して細かに説明を行います。また要望があれば可能な限り対応します。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の状況を見極めて希望があれば利用できるように支援しています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護を通じて、入居者や家族から意見があった場合は可能な限り取り入れています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連携して、必要なサービスを提供しています。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の知り合いの方が面会に来られています。もしなじみの場所に行きたいと希望があれば、調整して対応します。	入居者の馴染みの場所や馴染みの人などを入居時に本人や家族から確認しアセスメントやフェースシートなどに記載し全職員が把握できるようにしている。外出等の申し出があれば入居者の状況に合わせた工夫を行い調整している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のコミュニケーションが円滑に取れる様に職員が間に入り支援します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も連絡をとり現在の状況を聞いたり、退去時は困った事があればいつでも連絡してくださいと伝えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者がやりたい事が出来る様に極力考えて支援をしています。外出に関しても散歩などに行き、気分転換を行います。	入居者の思いや家族の思いを場面々で聞いて対応している。外出を希望すれば、公園などへ出かけている。利用者の方も外の環境に接することで安心感がでている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを活用して、職員間で共有しています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化があれば、ケアの方法を変える様にしています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画立案時には、入居者と家族や担当職員に意見を聞きながら計画をしています。	介護計画の作成は、1ヶ月毎にモニタリングを行い、随時対応している。家族に報告すると共に要望も聞き入れて作成し、本人の課題等については、チェックシートで日々確認している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を経過記録にきにゅうしています。またノートの作成をして、統一したケアを行えるようにしています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在の体制や制度の中で対応できない事があれば、他に代替案がないか考えていく予定です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事へ参加したり、地域の方の協力を行っています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族の希望を優先していますが、希望が無ければ提携医を紹介しています。	かかりつけ医の受診は、家族を中心に行っている。必要な時は、施設でも連れて行っている。感染症等の場合は、提携医と相談して対応している。患者情報シートを作成し、救急対応もできている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常がある際は、往診医やかかりつけ医へ相談しています。看護師はいません。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や、退院時のカンファレンス以外にも密に連絡をとり、退院の際はすぐに受け入れられる様な体制を作っています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が必要な方に関して受け入れは出来ませんが、家族の希望があれば看取り介護をかかりつけ医と連携を行い受け入れていく予定です。今後はクリニックと連携していきます。	施設の現状では、連携医と協力して可能な限りの対応しか出来ていない。今後は人的資源等の増強を図り、対応していきたいと考えている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成や救急対応を実際に行った際、後日方法の確認を行っています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難訓練に参加したり、施設での訓練を行っています。	施設の訓練には、消防署の参加を得て実施している。また、地域の防災訓練には職員が参加し連携を図っている。職員の連絡体制もできている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては、乱れない様にいつも注意喚起を行っています。	個人情報保護に関する研修を行い注意喚起している。マニュアルも作成している。個人の写真等の掲示については、必ず、本人や家族の同意を得て実施している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何がしたいか、訴えの無い方でも日々の介護の中で興味があるものやしたい事を見つける様に努力しています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れの中で、入居者がしたい事や希望があれば優先して行う様にしています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際は、着たい服があれば確認しています		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片付け等無理強いせずに行っています。また食べたいものがある時は、希望を聞いて反映させるように対応しています。	食事は、職員が調理している。食事時間は自由な雰囲気、楽しく過ごしていて、美味しく食べている。後片付けは、お盆の整理やテーブル拭きが主となっている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量については毎食後に確認しています。本人の食べられる量を提供しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレの支援を行っています。	職員との信頼関係ができており、日々の排泄習慣をチェックして必ず、トイレ誘導しており、人間の尊厳が保たれている。職員も当然との意識付けができています。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を活用して、主治医と相談して適切な排便が出来る様に支援しています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日と時間は決まっていますが、日々の体調に合わせて支援しています。	浴室は個浴2か所で、2ユニットで曜日を変えて、週3回提供している。お湯は、オーバーフローさせ、職員2名が支援を行っている。下着は入浴の都度着かえ、状況により随時対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者が休みたい時に生活に支障のない範囲で休息をとって頂いたり、夜間はその方のペースに合わせて就寝出来る様にしています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイル、手帳を活用してスタッフにどんな薬を飲んでいるのか把握してもらう様にしています。また主治医と連携を行い、不必要な薬の処方がないようにしています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換が出来る様に支援しています。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や本人の希望があれば外泊や外出が出来る様に支援しています。	外出や外泊は、本人や家族の希望を聞き計画的に支援している。また、急な外出などにも対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理については事務所で行っています。お金の所持に関しては希望が無い為、現在、個人的に所持している方はいません。希望があれば対応します。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話があれば取り次いでいます。通信いに関して希望があれば出来る様にしています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	間接照明を取り入れたり、月によってレイアウトをかえています。	ユニット間にホールや中庭が配置されており、中庭は入居者のガーデニング、ホールは作品の掲示場所となっている。自然の光が入り明るく、季節感も味わえ、入居者の憩いの場となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仕切りなどはありませんが、フロアの中で思い思いの場所で過ごせるようにしています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたたんすや仏壇などを持ちこめるようにしています。	明るく閑静で、家族や孫などの写真を貼付され、入居者独自の居室となっている。転落転倒防止が必要な方には、センサー付きマットを設置している。また、室内は車いすにも対応できている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かる様に張り紙をしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070703667		
法人名	有限会社 精祥		
事業所名	グループホームのぞみ さくら草		
所在地	〒807-0821 福岡県北九州市八幡西区陣原3丁目25-1		
自己評価作成日	平成28年11月1日	評価結果確定日	平成28年12月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=4070703667-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1 九勸筑紫通ビル9階
訪問調査日	平成28年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2ユニットを完全に分けるのではなく、毎日交流を行い一緒にレクリエーションを行っています。リハビリに関しては毎日の起立訓練を行っている他に、その方の状況に合わせ、生活の動作の中で立ち上がりや歩行を支援しています。そうする事で身体機能の維持・向上に取り組んでいます。

季節に合わせた草花や飾り付けを行う事で、明るい雰囲気作りを心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼後に職員全員で理念を唱和し、理念を意識して日々の支援を行っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加して、関係作りに努めています。またグループホームの行事に、地域の方を招いたり、ボランティアで参加して頂いています。公園の清掃の担当になり、地域活動も行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別な呼びかけは行っていないですが、いつでも相談に対応する準備はしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の自治会長や老人会の方に参加して頂き、グループホームでの出来事を報告しています。また地域の方の要望や意見を聞き、地域の手伝いを行っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターへの相談に関しては現在行っている例はありませんが、運営推進会議を通じ、グループホームの状況を伝えています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関して、身体拘束廃止委員会を開催しています。また転倒や転落の危険性のある入居者に関してはセンサーマットを利用して、拘束しないケアを行っています。センサーマットの利用に関してもスタッフ会議等で話し合い、必要が無ければ取り外す様にしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待と思われる声掛けや、行為があった場合は個別に面談を行います。また注意するだけでなく、職員のストレスや不安の軽減に努め、虐待が生じにくい環境作りを行っています。病院から衛生士を派遣して頂き、相談できる体制作りをしています。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の方で後見人制度を利用されている方がいますので、職員にもそういった制度なのか説明しています。また家族にも、必要な方に関して説明を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、見学を行った上で不安な事や疑問に答えています。また無理な勧め方はせず、家族や本人が納得して入居出来る様に心掛けています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や意見があり、職員に直接言いつらい方もいらっしゃるようですので、意見箱を設置していますが現在利用はありません。また面会の度に何か意見や不満が無いかこちらから尋ねています。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回スタッフ会議を開催して、意見交換を行っています。また個別に相談がある場合は、すぐに話が出来る様に心掛けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表の作成前に希望を聞き、極力応えられる様にしています。また家族の都合や子供の対応による急な勤務変更も調整しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し活き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	職員の募集、採用に当たっては性別や年齢で差別する事のない様にしています。職員のキャリアアップについては、外部研修や内部研修の参加を希望する場合は、調整しています。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	人権については、ミーティングやスタッフ会議の場で基本理念に基づき説明をしています。		
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については職場で費用を負担しています。また受講後は伝達研修を行い、他のスタッフも見識を深める様にしています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列施設との会議や、研修で知り合った方との定期的な連絡、意見交換を行っています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問や体験入居を行って、安心してサービスの利用が出来る様に努めています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安な事や疑問な事に対して細かに説明を行います。また要望があれば可能な限り対応します。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の状況を見極めて希望があれば利用できるように支援しています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護を通じて、入居者や家族から意見があった場合は可能な限り取り入れています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連携して、必要なサービスを提供しています。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の知り合いの方が面会に来られています。もしなじみの場所に行きたいと希望があれば、調整して対応します。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のコミュニケーションが円滑に取れる様に職員が間に入り支援します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も連絡をとり現在の状況を聞いたり、退去時は困った事があればいつでも連絡してくださいと伝えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者がやりたい事が出来る様に極力考えて支援をしています。外出に関しても散歩などに行き、気分転換を行います。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを活用して、職員間で共有しています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化があれば、ケアの方法を変える様にしています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画立案時には、入居者と家族や担当職員に意見を聞きながら計画をしています。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を経過記録にきにゅうしています。またノートの作成をして、統一したケアを行えるようにしています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在の体制や制度の中で対応できない事があれば、他に代替案がないか考えていく予定です。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事へ参加したり、地域の方の協力を行っています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族の希望を優先していますが、希望が無ければ提携医を紹介しています。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常がある際は、往診医やかかりつけ医へ相談しています。看護師はいません。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や、退院時のカンファレンス以外にも密に連絡をとり、退院の際はすぐに受け入れられる様な体制を作っています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が必要な方に関して受け入れは出来ませんが、家族の希望があれば看取り介護をかかりつけ医と連携を行い受け入れていく予定です。今後はクリニックと連携していきます。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成や救急対応を実際に行った際、後日方法の確認を行っています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難訓練に参加したり、施設での訓練を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては、乱れない様にいつも注意喚起を行っています。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何がしたいか、訴えの無い方でも日々の介護の中で興味があるものやしたい事を見つける様に努力しています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れの中で、入居者がしたい事や希望があれば優先して行う様にしています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際は、着たい服があれば確認しています		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片付け等無理強いせずに行っています。また食べたいものがある時は、希望を聞いて反映させるように対応しています。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量については毎食後に確認しています。本人の食べられる量を提供しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレの支援を行っています。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を活用して、主治医と相談して適切な排便が出来る様に支援しています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日と時間は決まっていますが、日々の体調に合わせて支援しています。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者が休みたい時に生活に支障のない範囲で休息をとって頂いたり、夜間はその方のペースに合わせて就寝出来る様にしています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイル、手帳を活用してスタッフにどんな薬を飲んでいるのか把握してもらう様にしています。また主治医と連携を行い、不必要な薬の処方がなようにしています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換が出来る様に支援しています。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や本人の希望があれば外泊や外出が出来る様に支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理については事務所で行っています。お金の所持に関しては希望が無い為、現在、個人的に所持している方はいません。希望があれば対応します。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話があれば取り次いでいます。通信んいに関して希望があれば出来る様にしています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	間接照明を取り入れたり、月によってレイアウトをかえています。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仕切りなどはありませんが、フロアの中で思い思いの場所で過ごせるようにしています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたたんすや仏壇などを持ちこめるようにしています。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かる様に張り紙をしています。		